

令和5年度
「おくのほそ道」最上町俳句大会

入選作品



松田佳津江 先生選

◇中学生の部（優秀句）

除夜の鐘鳴るまで寝ない日本人

大阪市立長吉六反中学校
三年生 山口 涼春

もくもくと入道雲が追ってくる

大阪市立長吉六反中学校
三年生 澤井 都樹

野球場蟬に負けじと声を出す

新庄市立明倫学園
九年生 志賀浪 樹

◇小学生6・5・4年生の部（優秀句）

いねかり機雨だけ降って動けない

大堀小学校
六年生 菅 桂斗

北風の笛にあわせて葉がおどる

大堀小学校
六年生 田中 玲風

落ち葉まういつもの道がちがう色

大堀小学校
五年生 木村 朱凜

◇小学生3・2・1年生の部（優秀句）

くりひろいもったらいたいようちゅうい

大堀小学校
三年生 菅 風翔

ひがんばんはなはなびみたいできれいだな

大堀小学校
一年生 石山 葉菜

あさがおさんどうしているがかわったの

向町小学校
一年生 秋葉 瑛都

松田佳津江 先生選

◇一般・高校生の部

赤倉ゆけむり館賞

待春や返礼品の湯めぐり券

群馬県藤岡市

原美知子

特選

ふるさとの山河紐解く粽かな

岡山県玉野市

立石はるか

優秀

湯治して赤啄木鳥を待つ日課かな

岡山県玉野市

立石はるか

のみしらみどんな虫かかど図鑑見る

山形県尾花沢市

信夫ノブ子

佳作

校舎てふ箱が体育祭の横

愛知県犬山市

福田匠翔

露天湯に一人の時間秋澄めり

宮城県大崎市

遠藤克子

湯の宿の初湯に桶の響き合ふ

福井県坂井市

小林陸人

入選

草の絮つけて足湯の客となる

山形県東根市

菊地みさ子

田水沸く十年振りの婚に沸く

大分県大分市

小野道山

名月を両手で掬う露天風呂

滋賀県長浜市

野口成人

紅葉の湯の体重計は貫目盛り

奈良県奈良市

堀隼人

かなかなや昔一里の下校道

大分県大分市

小野道山

「心のシャッターを切る」

松田 佳津江

俳句と言えば「プレバト」と返ってくるほど、バラエティー番組「プレバト」の俳句コーナーが人気だ。

「毎週、プレバトを見ているので俳句の作り方とコツがだいたい解ってきましたよ」

「助詞一つでガラリと世界が変わる俳句ってすごいですよ」

こんな話をよくするようになった。さぞ、俳句もたくさん作っているであろうと思い聞いてみると

「文才ないし、ありきたりな毎日じゃ俳句にならないですよ」

「テレビを見て楽しむだけで、凡人だから作れないです」

と、返された。なんともつたいない。俳句は、読むだけでも充分楽しめるが、作ってみて腑に落ちる事が多々あり、何気ない日常の中から生まれた俳句は、その時々等の等身大の自分を映す鏡にもなってくれる。心を動かされた何かにじりじりとピントを合わせてスマホで写真を撮るように気軽に心のシャッター切ってみてはどうだろうか。俳句は誰でも何処でも出来る最も始めやすいクリエイティブな事だと思う。

令和五年度おくのほそ道最上町俳句大会のお題は「湯（温泉）」。今回から「ゆ

けむり館賞」も加わり、湯に関する秀句が数多く寄せられ選をするのが楽しかった。

「ゆけむり館賞」

待春や返礼品の湯めぐり券

待春は冬の季語、目を開いて眺めた風景とゆうよりも瞼の裏に思い描く春への希望や期待が込められている。温泉散策マップや旅行のガイドブックを眺めながら春がくるのを心待ちにしている作者の思いが、上五の「待春や」の切字からよりいっそう強く伝わってくる。

「特選」

ふるさとの山河紐解く粽かな

遠いふるさとから届いた粽であろうか、井草の紐の質感や笹の香り、粽の素朴な美味しさが伝わってくる。

粽の紐をほどこきながらふるさとの笹の香りにすっかりご無沙汰している家族や友人、子供の頃に遊んだ野山や川のせせらぎが一気に蘇ってきたのではないだろうか。粽を噛みしめながらふるさとをしばし偲んでいる作者の姿が伝わってくる。